
デジタルポートフォリオを用いた 日本語学習の動機と習得の分析

高木 南欧子／佐藤 梓

本年度は、昨年度に行った先行研究の調査から得られた知見をもとに、外国語学習におけるデジタルポートフォリオの分類をすすめ、概要を実際のデータ収集調査へと展開をさせた。2022年度に行った先行研究の概要調査においては、デジタルポートフォリオは、学習の内省を促す評価の視点からの研究が多く見られ、学習・教育からの視点が少なかった。そこで本年度は、学習・教育に用いられた研究の調査を行った。デジタルポートフォリオと呼ばれるものには、元々は紙媒体であった学習の記録などをデジタル化したものや、最初からデジタルで作成された教材や学習記録、写真などによる個々の学習者の言語的体験の記録などがあった。ピア活動を用いた学習活動において、これらの記録や言語的体験が教材として活用される例が見つかったが、研究によっては紙の

ポートフォリオとデジタルポートフォリオでは違いが見られないケースもあった。また、コースシラバスとポートフォリオの包括関係についてはまだ整理ができておらず、課題として残る。次に本研究において進めているポートフォリオ収集留学生の学習動機に関する調査では、1年未満の短期留学生を対象に日本語学習に関する動機づけや日本留学への価値づけを探ることを目的に実施した。本年度前半に実施した調査では、日本への留学が自身にとってどのような意義があったかを自由記述形式で回答を求めた。この前半の調査では十分なデータ数の収集が叶わなかったため、引き続き、後半も同様の調査を継続することとした。来年度以降も本研究の調査を継続し、データ分析及び次の調査実施への準備を進めて行く予定である。

